

## ■ 発表内容

### <現状>

透析患者は合併症が多いことに加え週3回の通院が必要であり、新型コロナウイルス感染症が重症化するリスクが高いと言われています。2021年6月現在、約2000人の透析患者の新型コロナウイルス感染が報告されています。死亡率は国内全体で2%、腎移植患者は8%、透析患者では31%と高率です。

慢性腎不全の患者は腎移植を行うことで透析を離脱・回避することができます。病院への通院も最長3-4ヶ月に一回となり通院頻度が1/20に減らせます。

しかし、新型コロナウイルスに感染した透析患者が治療後に腎移植を行った報告は世界的にもまれで、国内ではこれまで1例もありませんでした。



# 国内初：新型コロナウイルス治療後の腎移植に成功！

## <報告内容>

献腎移植 (お亡くなりになられた方の腎臓を移植する) に登録された患者が、発熱・味覚/嗅覚障害を認め新型コロナウイルス感染症による肺炎と診断され入院されました。投薬と酸素吸入のみで寛解し治療開始から18日目に退院されました。治療の3ヶ月後、新型コロナウイルス感染症の再燃がないことを確認し献腎移植を行いました。当科で行ってきたこれまで通りの方法で安全に腎移植を行うことができました。現在までトラブルなく、良好な腎機能 (sCr 1.7mg/dL) を保っています。

## <社会的な意義>

日本初、世界第4例目の、新型コロナウイルス治療後の透析患者に対する腎移植に成功いたしました。

新型コロナウイルス時代の腎不全治療において、腎移植の優位性が今後益々増すと思われます。

Yoshinaga, K., M. Araki, K. Wada, K. Hasegawa, T. Sekito, S. Miyake, S. Watari, Y. Maruyama, T. Sadahira, S. Nishimura, K. Tanabe, H. Takeuchi, Y. Nakashima, M. Kinomura, H. Acosta, Y. Mitsui, R. Kubota, H. Nakajima, K. Edamura, Y. Kobayashi, M. Watanabe, T. Watanabe, F. Otsuka, J. Wada and Y. Nasu (2021). "Successful deceased donor kidney transplantation to a recipient with a history of COVID-19 treatment." J Infect Chemother.

